

黒岩子どもサポート会

見守る子どもたちからも元気ももらって

黒岩
(杉妻地区)

筆者
杉妻包括支援センター
地域支え合い推進員



子どもとの何気ない会話が活力になっています。自分達が休むと、次の日「何で休みだったの？」と言われるんです。

▲遠いところの家の場合、2～3回休憩することも

雨の日も雪の日も、子どもたちのために！

子どもたちに対する不審者による声掛けなどの発生事例に対して、平成16年に町内会の退職高齢者が中心となって「児童の安全を守るための会」が発足しました。以前は電柱広告の除去等も許可を取り行っていました。現在は活動の成果があっただけでほとんど見なくなりました。

会員全員がお揃いの衣装を着用して、毎日小学校1年生の下校時間に正門に集合。7つの方面に分かれる集団下校に、会員がそれぞれ2～4名付き添って子どもの家の近くまで送り届けています。他の町内会の子どもは、途中でそれぞれの町内会の方にバトンタッチをして家まで見送っています。



▲代表をされている
佐藤さんと古川さん

子どもたちとの毎日の何気ない会話が楽しみです



17年間継続していることで、地域の防犯や災害の際にも役立ち住民にも安心感をもってもらえています。また、上級生や小学校を卒業した中学生、高校生からも、下校時に子どもサポート会に会うと「こんにちは。」と挨拶をしてくれます。

高齢者が多い会ですが、元気な一年生と毎日歩くことで(20～30分程度)、子供たちから元気もらい健康に役立っています。子どもたちも、自分の祖父母のように毎日色々な事を話してくれるのが楽しいです。